



「いきなり座談会」

聞き手:都立武蔵村山高校教諭 上島純

8小の卒業生が、大きくなって、ふれっチャ・クラブに帰ってきました。武蔵村山高校では、「小学生との交流」という講座があります。その講座を履修している野球部3人組（今年の野球部は夏季大会でベスト16）のみなさんに、8小の思い出や講座について語ってもらいました。

——当時の8小はどうだった？

石塚 ボールを当てるボードが、むかしは、的当ての円の絵だったんですけど、こないだ行ったら、キャッチャーの絵になっていて驚きました。

——3人は野球チーム青空に入ってたんだよね？

佐相 チームで勝って行って、4年生のとき都大会も出ました。

柳川 校長先生（当時も牧一彦校長先生）が登校する時に毎日、門の前で一人一人挨拶してくださって、嬉しかった。

佐相 ラオスの募金っていうのがあって、500円貯めて、校長先生と記念撮影をして、むこうに学校が建ちました。

柳川 3校くらい建ったよね。

——みんなが小学生の時はどんなクラブに入ってたの？

柳川 ドッチボールと卓球に入っていました。

石塚 ドッチボールとバスケです。

佐相 ドッチボールと卓球。

——当時のむらこう生の印象は？

佐相 小学生の時だったんで、お兄ちゃん、お姉ちゃんがきた一みたいな感じ。

石塚 むかしは、むらこう生が何人もクラブにいた。

佐相 明るい人たちだった。

——いまの小学生はどう？

柳川 明るくて元気。ぼくは科学なんですけど、こないだは、べっこう飴を作りました。

石塚 4年生から6年生までいるんですけど、年の壁ってないですね。

佐相 ぼくは、バスケに入っているんですけどスポーツを一生懸命やっていていいなと。



左から、
柳川祐人さん、石塚武蔵さん、
佐相脩斗さん

令和2年度運営協議会委員の紹介

有馬 光彦	五中地区 CS 委員、学校関係者評価委員	永瀬 健一	五中地区 CS 委員、PTA会長
伊藤 舜一	元創価大学非常勤講師	植杉 義久	五中地区 CS 委員、副校長
井上 一弘	五中地区 CS 委員、学校関係者評価委員	椎野 裕史	五中地区 CS 委員、教務主任
上島 純	都立武蔵村山高等学校教諭	富田 基輝	生活指導主任
加羽澤 範明	伊奈平自治会副会長	ワーキンググループ	
永井 ひとみ	民生・児童委員、英語活動支援員	堀江 法雄	広報部
疋田 美登里	民生・児童委員	村上 雅子	環境緑化部
三瓶 清敏	残堀自治会副会長	筑波 奈美	ふれっチャ部
内野 孝則	三ツ藤郵便局長	北田 友美	学習支援部
渡辺 隆浩	学校関係者評価委員		

「夏の八小塾」学習プリント採点ボランティアに参加して

学校運営協議会 会長 有馬光彦

児童の元気な声「よろしくお願いします」で始まる。

学習プリントの答えに○×をつけて下さる保護者、学習ボランティア、そして地域の方々がメンバーのボランティアグループ「八小お手伝いクラブ」の方々への「あいさつ」である。



この八小塾は、夏季休業期間を活用した基礎・基本の徹底、及び休業中の学習習慣の持続を「算数」に特化し、学習プリントを基に行うものである。

2年生から6年生が対象で、5日間毎日前半・後半で合計10回、各学年2回の授業である。

通常の授業は一時限45分なのにこの塾では80分とよく我慢してやるなど感心する。

昨年から武蔵村山高校の生徒さんにもお手伝いいただき、児童もお兄さん、お姉さんとの出会いを楽しみにしていたが、今年は

新型コロナウイルスの感染問題もあり中止となりました。また、例年だとプール水泳教室と組合わせて行われていたが今年はそれも中止。

例年と異なった状況下での「夏の八小塾」、我々との密接を防ぐため児童との会話は透明板を通してのものとなった。

待ち受ける採点者のところに「お願いします」とプリントを提出。採点者は模範解答と照合し○×を付ける。全問正解となるまでやり直し、次のプリントへ。我々は直接の指導は行わず、児童はわからない時は手を挙げて先生方から指導を受ける。

私は間違いに対し、その原因を考え注意してあげるようにしている。例えば算数の基本がわからない故の×よりも、他面の指導、注意が必要だと思えることが比較的多くある。



【例えば】下記のような場合がある

- ・問題を読み、理解する力をつけてもらいたい。
- ・字が乱雑で計算用紙から写す時に読み間違える時。また間違えて読まれる時。
読みやすい丁寧な字を書くように。
- ・必ず検算するように。特に計算問題は重要。 等である。

※しかし、皆が一生懸命に取り組み、明るく学ぶ姿に喜びを覚える。

そして時間が来ました。お手伝いいただいた皆さんにご挨拶を！

「有難うございました」との元気な声で終わる。



参加いただいた方々から感想を戴きました。

- ・間違った箇所を繰り返し勉強して○をつけてもらった時の笑顔にこちらも「頑張ったね」と嬉しくなる。
- ・個人のレベルに合わせて学べる有意義な授業と思う。
- ・児童の真剣な勉強に対する思いや、態度が私達に伝わり緊張した。
- ・僅かでも私達が、児童の学力向上の一助になれば幸いである。
- ・○が多くて、褒めると喜んで次のプリントに挑戦していく児童や、中には解き方を大分忘れていた児童も見られた。
- ・もっと時間を増やした方が良いのではないかな。
- ・参加者がもっと多くなる事を期待したい。



お母さん方の参加が増えてきています。今後もよろしくお願いします。